

## 研究発表会若手優秀発表賞の受賞について

(公社) 日本地すべり学会

第 56 回研究発表会及び現地見学会実行委員会  
事業計画部

本学会では、若手研究者の研究奨励の一環として、研究発表会において優れた発表を行った若手研究者を表彰する「若手優秀発表賞」制度を設けています。本表彰制度は、昨年度までポスター発表のみを対象として実施しておりましたが、本大会より口頭発表も対象としております。本制度に則り、第 56 回研究発表会長野大会における若手研究者の発表に対して選考を行った結果、以下の方々の受賞が決定いたしました。受賞者には、長野大会実行委員会から表彰状と副賞が授与されるほか、学会誌への投稿時の優遇措置\*が授与されます。

### 【口頭発表部門】

田中大貴 (九州大学工学府)

演 題：熊本地震による崩壊斜面の形状分析と草千里ヶ浜火山降下軽石の土質特性

連名者：笠間清伸・古川全太郎・山縣史郎

長木大剛 (サンスイ・ナビコ㈱)

演 題：維持管理性に優れた高耐食・高耐力アンカーの開発

連名者：小町理・東康治・山崎勉・中村真也

高澤忠司 ((一財) 砂防・地すべり技術センター)

演 題：大規模地すべり地における GA を用いた地下水位変動予測

連名者：相楽渉・井藤嘉教

### 【ポスター発表部門】

関根猛 (北海道大学)

演 題：河川の脚部侵食が地すべりの活動度に与える影響に関する地形解析

連名者：笠井美青・桂真也・丸谷知己

桑澤昭雄 (信州大学)

演 題：火山地域における崩壊規模の決定要因に関する一考察

連名者：平松晋也・福山泰治郎

田島一希 (群馬大学大学院)

演 題：平成 26 年長野県神城断層地震による一地すべりの発生機構についての解析研究

連名者：佐竹亮一郎・山本優介・若井明彦・渡部直喜・王功輝・古谷元・蔡飛

## ■講評

口頭発表部門では、22名の候補者の中から、学生1名、社会人2名の3名の受賞となりました。3名の発表については、事前審査において複数の審査員から研究内容・完成度が全体的に高くよくまとまっていると評価されており、当日の発表でも内容や考えが伝わるようわかりやすいプレゼンテーションを行い、質問に対して適切に回答していると評価されました。受賞者以外にも、講演原稿による事前審査で研究内容や完成度が高く評価された発表が複数ありましたが、当日の発表に対する当日審査の結果、研究内容あるいは研究対象に対する理解度が十分ではない、わかりやすさが不足しているなどの理由で受賞に至りませんでした。基礎知識に立脚して十分な考察を行った研究内容はもちろん必要ですが、「発表賞」の趣旨から見て、発表の中で異なる背景を持つ聴講者に向けて、研究内容を正しくわかりやすく伝える工夫や態度、質疑応答により議論ができることも、重要な評価ポイントとしました。このほか、既往の成果・理論を現場に適用しただけで終わっている発表も見受けられました。研究の位置づけを明確にし、その先に向けたより深い考察や創意工夫を加えるなど、研究として次につなげる姿勢が望まれます。

ポスター部門では、20名の候補者に対して審査が行われ、学生3名の受賞となりました。ポスター発表部門では、優れた発表が多く口頭発表部門以上に点数が接近しました。その中でも受賞した3名の発表は、事前審査だけでなく、ポスターの出来栄、当日の発表状況などについて、複数の審査員から高く評価されました。受賞者の発表以外では、内容やポスターの出来栄など全体的な評価が高いものの、発表態度の評価が審査者により大きく分かれてしまった発表が複数ありました。残念ながらこれらの発表は、「発表賞」の趣旨から受賞を逃しました。受賞者の発表は、発表態度について複数の審査者から高い評価を得ており、この点においても「発表賞」の趣旨に沿ったものでした。

## ■選考方法

対象となる各発表について、講演原稿に基づく事前審査と実際の発表を対象とする当日審査の2段階の審査を行った。事前審査と当日審査の採点結果に基づいて、大会実行委員長、事業計画部長からなる選考委員会で審議を行い、最終的に受賞者を決定した。事前審査と当日審査の審査方法は次の通りである。

(口頭部門)

事前審査は、8名の審査員により、「研究内容」「研究レベル」「原稿の完成度」について採点した。事前審査結果の上位15名を対象として、発表セッションの座長による当日審査を実施した。当日審査は「発表状況」(研究内容への理解度(貢献度)の高さや、発表のわかりやすさ、質疑応答がきちんとできることなど)について採点した。また総合的な評価として、表彰に値する発表、表彰に値しないと評価される発表がある場合は、各審査員が記入する欄も設けた。事前・当日とも、審査対象の発表の関係者が審査員とならないようにし、第三者となる審査員による審査を行うようにした。

(ポスター部門)

事前審査は、4名の審査員により、「研究内容」「研究レベル」「原稿の完成度」について採点した。当日は、ポスター発表コアタイムにおいて、事前審査と同じ審査員が、「研究の内容」「ポスターの出来栄え」「発表状況」を採点した。表彰に値する発表、表彰に値しないと評価される発表がある場合は、各審査員が記入する欄を設けた。口頭部門同様、審査対象の発表の関係者が審査員とならないようにし、第三者となる審査員による審査を行うようにした。

■審査員(敬称略)

(口頭部門)

上野将司、小俣新重郎、佐藤剛、古本吉倫、古谷尊彦、古谷元、山崎孝成、渡部直喜、  
各発表セッションの座長

(ポスター部門)

稲葉一成、紺野道明、福山泰治郎、八嶋厚

\*学会誌投稿優遇措置

受賞者が筆頭著者として、受賞した発表に関連する内容の論文を地すべり学会誌に投稿・掲載をする場合、受賞から3年間は、投稿料を免除するものとする(期間は、受賞者発表日および編集委員会での原稿受付日を対象とする。発表様式は問わない。ただし、カラー印刷料、超過頁料金は免除対象に含まない)。これを機にぜひ成果の論文投稿をお願いいたします。

以上